

日頃の準備

適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どのような備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認
(大学周辺および自宅周辺)
- 非常時に必要なアイテムの準備
- 家族との連絡方法および待ち合わせ場所の確認
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認
(災害時徒歩 2.5km / h)
- 緊急時パーソナルメモの記入
- 家具など転倒防止対策の確認
- 大学および友人等への連絡方法の確認およびリスト整備
- 地域・大学の防災訓練へ積極的に参加



緊急避難アイテム

日頃から携帯しておく便利なもの

- 現金(小銭も)
- 身分証明書(免許証)
- 健康保険証
- アドレス帳
- タオル・ばんそうこう (家族・友人の連絡先を記入)
- 携帯充電用USBケーブル
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- チョコレート・飴など

その他非常時に必要なアイテム

- 貯金通帳
- 印鑑
- 常備薬とその処方箋
- 上着・下着・靴下
- 運動靴
- リュック
- 卓上コンロ
- ろうそく
- ヒモ・ロープ
- 缶切り・栓抜き
- 予備電池
- 洗面用具
- スリッパ
- 非常用食料
- 使い捨てカイロ
- ポリエチレン製ゴミ袋
- 雨具(カッパ)
- 手回し充電ラジオ
- 油性マジックペン
- 懐中電灯*
- 非常用保温アルミシート

*電池を入れたままにしておくで液漏れにより故障する場合があります。電池は外した状態で懐中電灯の付近に備えてください。



学内避難場所

避難場所 第1グラウンド

地震の程度により、各棟の前庭へ避難するか、第1グラウンドに避難するか異なります。

近くの教職員の指示、全館放送の指示に従ってください。



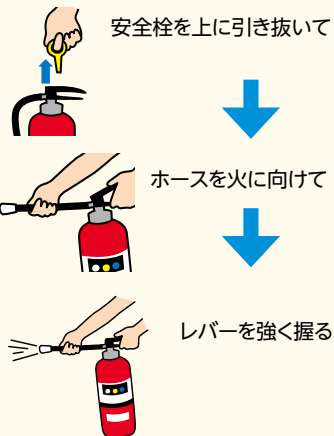
火災発生時

火災避難のポイント

- 火災を発見したらすぐに**119番**。場所はどこか、何が燃えているか、けが人がいるかの確認に伝えてください。
- 出火から**3分以内**が自分で消火できる限界です。それを越えた場合はすみやかに避難しましょう。
- 避難時、延焼を防ぐため、燃えている部屋の**ドアは閉め、空気を絶ちましょう。**
- **エレベーターの使用は危険です。絶対に使用しないでください。**
- **煙を吸うのは危険です。濡れたハンカチなどを鼻と口に当て、呼吸は鼻から吸い、口から吐くようにしましょう。**
- 煙が充満している場合、**姿勢をできる限り低くして避難しましょう。**
- 一度避難したら**戻らない**ようにしましょう。

消火器の使用方法

普段から消火器がどこに設置してあるか確認しましょう。



応急処置

止血

出血している部分に清潔なガーゼやハンカチを当てて片手で圧迫します。血がにじんできたならガーゼやハンカチを重ね、きつめに包帯を巻いてください。(感染予防のため、救助者はできる限りビニール手袋やビニール袋を手に着用してください。)
※血が噴水のように吹き出る場合は応急処置とともに119番へ連絡しましょう。



心臓マッサージ

倒れている人の胸の真ん中(乳頭と乳頭を結ぶ線の真ん中)に手のかかとの部分を重ねて乗せ、肘を伸ばしたまま真上から強く押ししてください。(この時胸が4～5センチ程度沈むまで)これを1分間に約100回の速さで繰り返し続けます。AEDが到着次第、電源を入れ、音声ガイドに従ってください。



緊急時パーソナルメモ

氏名 _____
学部 _____
学籍・教職員番号 _____
緊急連絡先 _____
住所 _____
電話番号 _____
生年月日 _____
持病 _____ 常備薬 _____
アレルギー _____

大学にいる時の避難場所 _____

自宅近くの避難場所 _____

家族の連絡先 _____



創価大学



創価女子短期大学

災害 対応マニュアル



学内緊急連絡先

防災センター(24時間対応)

内線番号 3110

外線番号 042-691-2169

・本マニュアルは、カラーユニバーサルデザインとユニバーサルフォントを使用しております。
・大きな災害に備え日頃から本マニュアルを持ち歩きましょう。

地震発生

- 自分の身を守る
- 自分のいる場所は安全か?

YES

その場を動かない

NO

避難場所へ移動

家族への
安否確認

自宅に歩いて
帰れる?

YES

自宅へ

NO

避難場所へ

大学へ
安否報告

★地震発生直後

揺れがおさまったら

落ち着いたら①

落ち着いたら②

大学にいる時

- 窓や棚、ガラスなど割れたり中の物が飛び出しそうなものから離れる。
- 机の下に潜るか、バッグなどで頭を覆い、落下物から頭と手足を守る。
- 実験中など火気を使っている時は身の安全を確保した上で、火を消す。また、薬品などから離れる。
- 広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み、揺れがおさまるのを待つ。

通学中

- 周辺の状況に注意を払い、身の安全の確保を最優先とする。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。
- 電車、バスに乗っている時は、窓ガラスから離れ、ポールなどにつかまり衝撃に備え、係員の指示に従う。
- 車に乗っている時は、一旦左側に寄せ、ラジオなどで情報を入力し、徒歩で避難する。避難する時はできるだけ車を道路外に置く。

●避難場所…第1グラウンド

地震の程度により、各棟の前庭へ避難するか、第1グラウンドに避難するかは異なります。近くの教職員の指示、全館放送の指示に従ってください。

- 揺れがおさまったら、ドアを開放し、出口の確保につとめる。
- 地面・床の亀裂や陥没・隆起に注意する。
- 出口には殺到せず、あわてず避難する。
- エレベーターの使用はしない。階段を利用する。
- ドアは開放したまま避難する。ただし、火災が発生し消火不能の場合はドアを閉め避難する。
- チェーンメールなど、デマに惑わされないようにする。
- 停電した場合、誘導灯を目印に避難する。



- 避難中は警察や消防の指示に従う。

知っておこう!

自宅にいる時、破損状況を写真に取り、地震保険、罹災証明申請の準備をしておくとお便利。

知っておこう!

安否確認システム

地震など大災害発生時に大学から安否確認のメール又は電話が本人の携帯電話に発信されます。

ドメイン拒否の解除、又は指定受信のお願い

ドメイン拒否設定とは、送られたメールを受信拒否する設定です。震災時に安否確認システムのメールが届くようにドメイン拒否を解除、又は、[soka-univ@asp21.emc-call3rd.jp]をドメイン指定受信してください。

※携帯電話の基地局などの故障により、電話やEメールが受け取れない場合、公衆電話や非常用衛星電話が利用できるようになった際には、以下の電話番号にかけて安否報告を行ってください。

電話番号

045-345-1333

つながらない場合は

06-7732-7346におかけください。

電話をかけた際、ID・パスワードを求められます。どちらも学籍・教職員番号を入力してください。但し大学院生については、学籍番号内の英字を、下記のように数字に置き換えて入力してください。

[m]→[01] [d]→[02]

例:09m9999→09019999

知っておこう!

災害伝言ダイヤルサービス

地震や大災害発生時に、電話が殺到し、つながりにくなります。家族と連絡を取る際、本学専用の災害伝言ダイヤルサービスをご利用ください。

伝言の録音・再生

045-345-1333

へ電話をかけます。

つながらない場合は

06-7732-7346

におかけください。

1 をおす

ID、パスワードを入力
(共に学籍・教職員番号を入力する。)

※大学院生は左記を参照

音声ガイダンスに従って、録音・再生をしてください。

こんな時どうする?

- ◎ エレベーターの中にいる時は、最寄りの階で下りる。
- ◎ 地下街にいる時は、むやみに非常口に殺到せず、係員の指示に従う。
- ◎ 台所にいる時は、消せるようなら火を消し、直ちに安全なスペースに移動する。